

令和4年1月4日

慶應 SFC 学会 御中

2021 年度 慶應 S F C 学会研究助成金 (E) 成果報告
慶應義塾大学未公認学生団体 Safe Campus 主催「Gender Updater SFC」

慶應義塾大学総合政策学部総合政策学科 2 年 中村彩夏

【概要】

学内の性暴力や性差別をなくすための活動をしている慶應義塾の未公認学生団体 Safe Campus は、2021 年 12 月 5 日（日）にワークショップ「Gender Updater SFC」をオンラインにて開催した。本活動は、塾生及び塾関係者を対象とし、大学におけるジェンダー平等、および性暴力に関する問題への気づきを得る場を提供することにより、慶應義塾大学におけるジェンダー平等と性暴力のない環境を実現することを目的とした。

【当日の様子】

本活動は、団体に所属する 9 人の学生で運営し、慶應義塾大学に所属する 12 名の学生と 1 名の教員が参加した。当日は、前半にジェンダー差別及び性暴力に関する講義を行い、後半は参加者をグループに分け、ジェンダーや性暴力に関する身近な問題について話し合ったり、全体の場でディスカッションの内容を共有したりした。講義では、前半にジェンダーやセクシュアリティに関する基本知識（セックスとジェンダーの違い、SOGIE の定義など）や、日本のジェンダーギャップの現状などについて説明した。後半では、そもそも性暴力とは何かを解説した上で、被害後の精神障害やセカンドレイプ、相談された際の対応について説明し、性的同意という概念や第三者として出来ること（第三者介入）も紹介した。

講義終了後は、2 回に分けてディスカッションを行った。1 回目のディスカッションでは、「デジ女・リケ女という言葉についてどう思うか」「現行の刑法で規定されている性交同意年齢についてどう思うか。どう変えていくべきか」「『14 歳と 50 歳の恋愛』発言は何が問題なのか」といった、事前に用意した 10 個のディスカッションテーマからトピックを選んでもらったり、個人で話したい内容を自由に話し合ってもらったりした。当日は、3~4 人のグループを 3 つほど作り、ディスカッション終了後に各々で話し合った内容を共有することで、参加者が出来る限り多様な視点からジェンダーや性暴力の問題について向き合い、考えられるようにした。

2 回目のディスカッションでは、学内や日常生活などで、参加者がより身近に感じているジェンダーや性暴力、性的同意の問題について話し合った。具体的には、制服が男女のアパレル観に与える影響や、ジェンダーバランスに関する問題、現在の性交同意年齢に関する議論などが行われた。例として、選択的夫婦別姓制度に関する議論においては、戸籍上女性である参加者から「私は自分の苗字にこだわりのないため、変えることは特に何も感じないが、選べることは良いことだと思う。」という意見があった一方、結論は類似しているが、「女性だけが苗字を変えることに大きな違和感を抱く。実際に苗字が変わって苦労した声も聞く。選択できるようにすべきだ。」という意見も見られた。また、「現状、どちらかの姓に統一しなければならないだけで、慣習的には男性の姓に合わせるが、制度としては女性の姓に合わせるのも良い。不平等を変えていくには、その制度を変えるべきなのか、あるいは慣習的に女性が姓を変えるのがメジャーである風潮をソフト面から変えるべきなのか悩ましい。」といった意見も見

られた。

Safe Campus のメンバーは、ディスカッションでファシリテーターを務めたり、各ブレイクアウトルームを巡回したりしていたが、どのグループでも参加者同士で活発な議論が行われていた。また、話し合の際に気をつけることなどをまとめたノーム（ルール）を事前に共有していたこともあり、大きなトラブルなく本番を終えることができた。

【参加者からの感想】

ワークショップ終了後に行った参加者アンケートでは、ワークショップの良かった点や印象に残った点について、「(ジェンダーや性暴力に関する議論を) 色々な人とするのは普段の生活ではあまり無いので、とても有意義な時間でした」「(第三者介入について) Distract の話は非常に参考になりました。(性暴力の現場において、加害者や被害者と直接的に) 関わらずに目的を達成する方法があるのは目から鱗でした」「体系的な知識だけでなく、実際に現実で直面する可能性のあるシナリオを通して主体的に考えながら学べた点良かった。また、他の参加者の方々ともディスカッションできて濃い時間でした」といった声が寄せられた。また、「なんとなく知ってたけど詳しくは知らないようなことも、今日のワークショップで教えていただくことができてよかった」「なかなか日常的には話題になりにくい、あるいは話し合う機会が少ないこのテーマに対して自分を見つめ直す機会にもなった」「またこういったワークショップを開催してほしい」など、ジェンダーや性暴力に関して学んだり、議論したりする場が限られていることを示唆するコメントも複数寄せられ、今後もこうしたワークショップを学内で開催することの必要性が感じられた。

ワークショップ終了後、希望者には、2021年3月にVoice Up Japan 慶應支部と共同制作した「性的同意ハンドブック」を郵送した。このハンドブックには、学内の性暴力実態調査の結果や相談機関をはじめ、性的同意や第三者介入の方法についても記載されている。

【活動の成果と今後の展望】

本活動は、慶應義塾において、ジェンダー平等や性暴力に対する既存関心層だけでなく、これまでアクションを起こしたことの無い層や、関心はあるもののまだ勉強を始めていない層に対して、性暴力の現状に関する情報や、性差別に関する基礎的な知識を提供したいという意図があった。今回のワークショップでは、参加者の声から、ジェンダー平等や性暴力、性的同意に関する気づきを得る場を提供できたと考えている。同時に、身近なジェンダーに関する問題について話し合う場の必要性が再確認された。そのため、このような少人数で個人のジェンダー観や性暴力に関する認識を再定義するような場を設ける活動を引き続き行っていきたい。また、慶應義塾に所属する全ての塾生及び塾関係者が、ジェンダーや性暴力に関して問題意識を持ち、慶應義塾大学において、性暴力のない環境やジェンダー平等を実現するために、これからも団体として啓発活動に力を入れていきたい。

【謝辞】

本活動は、総合政策学部馬場わかな教授のご指導のもと、参加者の12名学生の方々、およびSafe Campus メンバーにより開催されました。関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。また、本活動は慶應 SFC 学会の助成を受けて開催へと至りました。心よりお礼申し上げます。